

全国農政連推薦・農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

## 永田町でも「百姓宣言」

「政策立案の場に身を置いて」  
「農家の営農復旧に全力」

10月中旬に東日本を襲った台風19号による大規模災害では、多くの方が犠牲となり、また大雨による冠水や強風による農業用施設の損壊、河川の決壊による土砂の流入など、甚大な被害が発生しています。犠牲者の方々へ心からお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に深くお見舞い申し上げます。

私も被災した農家が安心して営農の復旧、再開に取り組める対策の検討に加わっています。この間、政務三役で分担しながら被災地を訪問させていただき、被害調査を実施してまいりました。私が訪問した、茨城県、長野県、栃木県、新潟県では、地域によってそれぞれ課題が異なることが印象的でした。被災された方々は口を揃えて「百年に一度」や「何十年に一度」といった表現で今回の自然災害を語っています。

私が国政への挑戦を決意した年には、熊本地震がありました。以来、九州北部豪雨、西日本豪雨や大雪による災害、さらには北海道胆振東部地震など、全国各地で甚大な自然災害が発生してきました。

災害対応に関する情報収集や、自治体との連携はかなりスピードが上がってきましたが、被災者まで必ずし

も正確な情報が適切に伝わっているとは言えません。被災された方々がどのような情報を望んでいるか、どのような発信方法がよいか、支援対策と合わせて徹底して検討を行っています。農業を続けたいという思いに寄り添う政治でなければなりません。

【次期基本計画へ地域の実態を反映】

農業政策の骨格となる「食料・農業・農村基本計画」の見直し協議が本格化しています。生産基盤を維持し、地域や農村の活力を維持していくためには、多様な主体が農業に関わる必要があります。現在の政策目標である規模拡大や効率化は一部では重要なことかもしれませんが、地域の実情も様々であり、限界感を感じています。食料自給率も37%と低迷する中、国内生産を前提とした食料安全保障の確保を前提と考えると、やはり大事なものは家族農業や小規模農家の支援や中山間地域の農業政策のあり方です。



▲台風被害の現地調査(長野県)

全国・農政連推薦  
参議院議員山田としおの

## 農政問題に斬り込む

「総理の所信表明に欲しかった、

「農を励ます」言葉」

【参議院選挙後の国会が始まりました】  
早速、安倍総理の所信表明演説がありました。

冒頭に、新しい天皇の即位に伴い、敗戦後の日本の復興を振り返り、高度経済成長を実現したことをおっしゃった。まさに、敗戦による疲弊を乗り越えて、列強の国々に伍して、「小国、日本が、先進経済発展国として成長したことは、国民の力です」と表現された。

演説で総理は、「億総活躍社会」の実現、少子高齢化の克服、教育の無償化、高齢者の就業機会の確保など、全世代型社会保障の実現について言及された。その中で「地方創生」に触れて、「強い経済をつくる、成長戦略を進める、日本企業への外資による直接投資拡大を進める」とおっしゃったが、何か違和感がありました。というのは、地方の疲弊や農業者の減少、高齢化に触れられなかったからです。

【地方創生を掲げられたが、  
農産物の輸出拡大のみ】

「農産物輸出を進める」という形で、「農業」に触れられましたが、ここだけでした。賛成ですが、圧倒的に農業者の高齢化が進み、機械化、規模拡大を目指してスマート農業が声高に叫ばれているが、誰がそれを担うのか。すでに規模

を拡大し農外の株式会社に参加させ、外国人就労者の拡大と、外資による大規模農業経営が、登場しているのです。こうした事態をさらに進めるといふことなのか、心配です。

今や、日本企業に対する海外からの直接投資が5年連続して最高を更新していること、圧倒的な経済の国際化が進んでいることを、総理自身が、「地方創生」と関連させておっしゃった。地方では、ニュージーランドのキウイフルーツの会社が、資本も従業員もすべて外国人で進出している。これは果たして、本来の意味での「地方創生」になるのでしょうか。

今回の、日米貿易交渉は、ギリギリのところで、米国の、「M・牛肉 豚肉等の日本への大幅な輸出拡大要求を踏みとどまらせたが、我が国が自由貿易の旗手として存在するのだ」とそのための経済圏の世界への拡大だ」と、おっしゃるとき、本当に、どんな日本を、どんな故郷をつくることになるのか、心配です。

【触れてほしかった、地域における  
「協同の取り組みの強化」】

私は、ふるさとの元氣を取り戻すためには、地域で暮らす、地域の農地を守る、そこに協同の取り組みがあり、それを手助けする、地域と家族による協同の取り組みが必要と考えています。

まさにJAの役割が大きいと確信しています。総理には、「農を励ます」「地域の協同の取り組みを励ます」言葉をいただけるように、引き続き全力で頑張ります。